

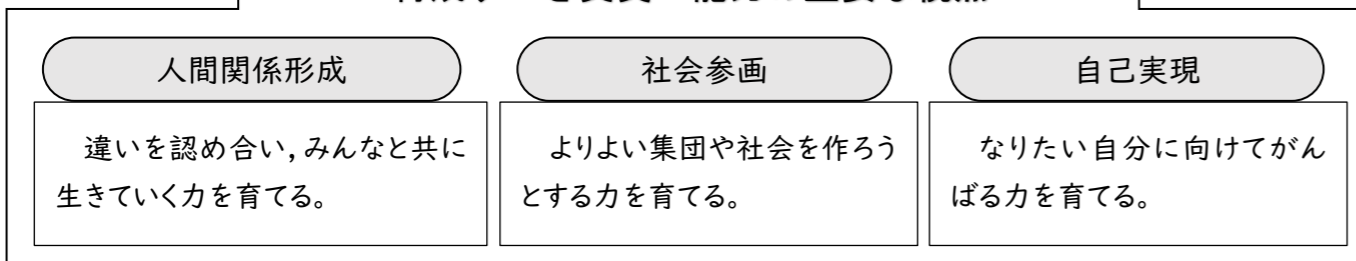
研究主題 安心できる学級・学校づくり ～生徒指導の三機能を生かし、子どもの主体性を育てる～

議題 「おたのしみかいをしよう」 (1)ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

1. 学級活動(1)で育成を目指す資質・能力

- 学級や学校の生活上の諸問題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けるようにする。
- 学級や学校の生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができるようにする。
- 生活上の諸問題の解決や、協働し実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。

育成すべき資質・能力の重要な視点



2. 第1学年及び第2学年における評価規準

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
みんなで学級生活を楽しくするために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 話し合いの進め方に沿った意見の発表の仕方や他者の意見の聞き方を理解し、活動の方法を身に付けている。	学級生活を楽しくするために、問題を発見し、解決方法について話し合いの進め方に沿って合意形成を図り、仲良く助け合って実践している。	学級生活を楽しくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己の考えをもち、役割を意識して集団活動に取り組もうとしている。

3. 議題について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、元気良く挨拶を返したり、気になることや思ったことを人に伝えたり、積極的に人と関わろうとする姿が見られる。また、学級の当番活動等にも意欲的で、初めてのことに物おじせず積極的に活動できる。しかし、友達との関わりについては同じ幼稚園、保育園から来た仲の良い児童同士で遊ぶことが多い。また、児童同士が関わり合う中で、相手の気持ちを考えず発言したり、自分の気持ちばかりを優先して相手の話を聞かない等、自分の気持ちを伝えたり相手の気持ちを聞いたりすることに課題のある児童が多い。一方で、自分の考えを表現することに消極的な児童もおり、ペアやグループでの話し合いが、話したい児童の一方的な話で終わってしまうこともある。以上のような児童の実態が見られるが、1学期の「いじめストップキャンペーン」で取り組みを考える際には、「ともだちにいやなことをいわない」「みんなとなかよくする」という意見が多く、児童は友達とよりよく関わりたいという気持ちをもっていることが分かった。

学級活動については、5月にオリエンテーションを行った。その際、「みんなが仲良く、楽しくなるためにやってみたいこと」を出し合い、一人ひとりやってみたいことを学級会カードに書くことができていた。一人ひとりの思いを大切にしたいと考え、「やってみたいことリスト」としてまとめ掲示した。その後教師主導の学級会を行いながら、話し合いの進め方、ルール、役割について共通理解を図った。そして、「学級会の名前を決めよう」「ミニレクをしよう」などの議題で学級会を開き実践してきた。初めての議題「学級会の名前を決めよう」では、たくさんの児童が自分の意見を出すことができていた。しかし、一つの名前に決める際、友達の意見に納得できず、自分が出した意見が通らないことで拗ねてしまう児童もおり、全員で考えをまとめることの難しさを感じた。第3回の「ミニレクをしよう」からは、司会と副司会を決め話し合いを始めた。まずは、学級会は話し合っ決まったことをみんなでできる時間ということを経験させるために、一時間の中で話し合い、実践、振り返りを繰り返し行った。始めは、自分の考えをもつこと、それを発表することなどに抵抗を感じている児童も多かったが、少しずつ「話し合い」の流れを理解し、ほとんどの児童が話し合いに参加できているようになりつつある。また、話し合い活動の中で、国語科の学習で学んだ、話している人の方を見て話を聞くこと、反応することを意識させる声掛けをしてきた。話を聞くことは、会を重ねるごとに少しずつできてきている。しかし、友達の意見を聞き、その意見に対して質問したり、不安なことを伝えたりする力はまだ低い。さらに、自分の意見を伝えることに恥ずかしさを感じたり、理由を付けて話すことを難しく感じて言えなかったりする児童や、友達の意見を受け入れられず話し合いから外れようとする児童もいるという現状がある。

(2) 議題選定の理由

本議題は、5月のオリエンテーションの際に出た「みんなと遊びたい」という思いと、これまでの話し合いから出てきた「みんなとなかよくなりたい」という児童の思いから選定した。実施してきた活動の振り返りでは、「みんなと遊べて楽しかった」「みんなでまた話したい」などの振り返りが見られた。今回の話し合いでは、これまでに実施してきた話し合いと同様にみんながなかよくできるレクを考える中で、自分の考えをもち、発表したり友達に伝えたりすることができるようにしたい。また実施後に「みんなでなにかをするのは楽しい」と児童が実感できる活動にしたい。

4. 指導と評価の計画

事前の活動		本時の展開			事後の活動	
日時	計画委員の活動計・学級全員の活動学 指導上の留意点(・)	本時のねらい みんなが仲良くなれるレクと工夫を考えることができる。			日時	計画委員の活動計・学級全員の活動学 指導上の留意点(・)
6月23日(木) ①昼休み ②帰りの会	①議題の決定計 ・やりたいことリストや議題カードをもとに話し合う議題を決める。 ②議題の周知計 ・提案理由を明らかにして、学級全員に伝え、学級会コーナーに掲示する。	話し合いの順序	気をつけること ○留意点	◎目指す児童の姿 (観点)【評価方法】	7月1日(金) ①朝の会	①決まったことを知らせる計 ・学級会で決めた要点をまとめて伝えられるよう助言する。
6月24日(金) ③昼休み ④帰りの会	③役割分担計 ・学級会の進行の仕方を確認する。 ④案募集学 ・学級会ノートに自分の考えを記入する。	1 はじめの言葉 2 計画委員の紹介 3 議題の確認	<p style="text-align: center;">おたのしみかいをしよう</p> <p>・めあてをもって自分の役割に臨めるようにする。</p> <p>4 提案理由の確認 ・提案者の思いや願いが伝わるよう、事前に背面黒板に記入して学級全体で周知しておく。 『みんなでなかよくできるレクをかながえよう』</p> <p>5 めあての確認 6 決まっていることの確認 ・決まっていることを確認する。 ★1時間 ★体育館 ★みんなでできること。</p> <p>7 先生の話 ○前時までの取り組みの良かったところと期待を伝え、本時の意欲を高める。</p> <p>8 話し合い 話し合うこと① 「どんなれくをするか。」 話し合うこと② 「なかよくするためにはどうするといいか。」</p> <p>9 決まったことの発表 10 振り返り ○自分自身や友だちの成長したところや次に繋がる課題等について書いてある振り返りを紹介する。</p> <p>11 先生の話 ○自分の意見を伝えたり、友達の意見を聞いて考えたりしていた児童を称賛する。 ・実践への意欲が高まるように言葉掛けを行う。</p> <p>12 おわりの言葉</p>	◎みんなで仲良くできるレクにするためには何ができるか、発言したり、友だちの意見を受け止めながら聞いたりしている。 (思考・判断・表現) 【観察・発言】	7月5日(火) ②学級活動	②活動の実施学 ・ねらいを確認し、協力して実践できるようにする。 ・協力したり工夫したりして活動している児童を称賛する。
6月27日(月) ⑤昼休み	⑤学級会のシュミレーション計 ・進行、板書をイメージしながら確認し、話し合いの見通しをもてるようにする。	◎目指す児童の姿(観点)【評価方法】			7月5日(火) ③学級活動	③振り返り学 ・めあてに基づいた振り返りを行う。 ・自分の役割や友だちの良さについても振り返り、自他の頑張りを認められるよう助言する。
◎目指す児童の姿(観点)【評価方法】 ◎よりよい学級生活づくりのための見通しをもち、意欲的に取り組もうとしている。 (主体的態度) 【学級会ノート・観察】 ◎「おたのしみかいをしよう」の目的に合った意見を考え、判断し学級会ノートに書いている。 (知識・理解) 【学級会ノート・観察】		◎目指す児童の姿(観点)【評価方法】 ◎「おたのしみかいをしよう」を振り返り、自他の頑張りに気付いたり、次の活動に生かそうとしたりしている。 (主体的態度) 【行動観察】 ◎活動のめあてを意識し、友だちと協力して取り組んでいる。 (思考・判断・表現) 【行動観察・振り返りカード】				

5. 板書計画

第 回 学級会
<p>めあて みんなでなかよくできるレクをかながえよう。</p> <p>話し合うこと① どんなれくをするか くらべあう</p> <p>おにっこ どっちぼる ふるうつばすけつと くいず まとめる</p> <p>話し合うこと② なかよくするためには どうするといいか。</p> <p>出し合う おとこのこも、おんなのこもなかよく あそぶ。 いやなことをいわない。 こえをかける。</p> <p>ふりかえり</p>